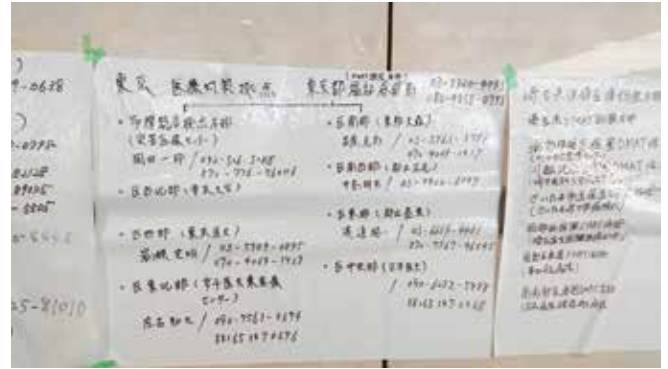




令和元年度大規模地震時医療活動訓練に参加して

庶務係 谷口 純也

9月7日に行われた令和元年度大規模地震時医療活動訓練に参加してきました。本訓練は今後30年以内に70%の確率で来ると言われる首都直下型地震を想定した訓練であり、内閣官房をはじめとした各機関合同により行われるもので、我々は全国から被災地に派遣されるDMAT(※1)チームの一つとして参加しました。参集拠点は成田国際空港で、空路にて参集したのち、レンタカーで各所へ移動することとなり、我々はまず帝京大学医学部附属病院を目指して移動しました。空港の拠点本部でのブリーフィングでは、いくつかの高速道路が液状化により通行不能とのことであったので、カーナビに頼りながら迂回することになりました。到着後は、10分もせず次の目的地



である順天堂大学医学部附属練馬病院への病院支援を命じられ、練馬病院の指揮下に入り病院に展開されていた赤ブースでの活動を行うことになりました。我々は他のDMATチームに先駆けて到着した「先着隊」となったのですが、実を言うと、この練馬病院での活動は通常求められる動きではありません。災害拠点病院の病院支援に入ったDMAT(特に先着隊)は、その病院の中でDMAT活動本部を立ち上げ、病院の災害対策本部と連携を取りながら、都道府県本部等のDMAT本部との連絡調整や、その病院から近隣へのDMAT派遣の取り纏め等をしていくこととなります。今回は訓練コントローラーから指示があったため、本訓練の一部として行われていた練馬病院の院内訓練に参加することになりました。院内災害訓練は当院でも定期的に行っていますが、それを外の立場から見ることで、気づかされることが多くありました。今回の訓練においては移動が主となり、連絡・通信手段の確保やEMIS(※2)による適時の情報受発信等、ロジスティクスの活動の比重が大きくなったため、改めて業務調整員の重要性を感じるとともに、日々の研鑽に努めていくことの必要性を強く感じました。本訓練で得た気づきを活かしながら、今後も様々な訓練に参加し、技能の向上を図っていききたいと思います。

※1…DMATとは、**Disaster Medical Assistance Team**(災害派遣医療チーム)の略称であり、「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されている。医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外)からなる。

※2…EMISとは、**Emergency Medical Information System**(広域災害救急医療情報システム)の略称であり、災害時の医療情報をインターネット上で共有し、被災地での医療情報を集約して提供するシステムのこと。

